

今月のコラム

花(植物)の力、 =支援活動に参加して、今思うこと



(株)レイ・ハウス
上野和治

平成 23 年 3 月 11 日、日本国民全体を震撼とさせた東日本大震災が発生してから 20 ヶ月以上経過する。光陰矢のごとしである。しかし、われわれの耳に入ってくる情報は何一つ安心できるようなものがないのではないのでしょうか？

ニュースとはそのようなものだ！ と いってしまえばそうかもしれませんが、日本人としてあまりにも情けないように感じてしまうのは私だけでしょうか？

実際に現地に何回か足を踏み入れ、現状を見て、その場の人たちの話を聞くにつれ、居ても立っても居られなくなり心が押しつぶされそうになります。本当に今、同じ近代文明国家で起きていることなのだろうか？ と思ってしまう時もあります。

しかし、またその半面、決して表には取り上げられることがなくても、今の自分たちにできることは何か？ 真剣に考え、実践躬行している人たちもたくさんいることも事実です。私はそう考えたい。

当会が水野会長のリーダーシップにより、春、夏に被災地小学校を回り、自ら体験学習指導を行い、毎回 20 校ちかくの学校に支援していることも回りからみれば本当に小さい活動であるかもしれません。しかし、我々のこの活動は現地への直接的な物資だけの支援活動ではなく、会長が言われているように少なくとも被災した小学校 1 年生が卒業するその時まで『花(植物)の力』で応援しよう!! を合言葉に活動を行っています。実際に被災した小学生たちが自分たちでアサガオやヒマワリの種子を採取して、それを皆で力を合わせ立派に育て、近くの仮設住宅の人たちに届けて回りの人々を元気にしているという話を聞いたりすると、本当にこの子たちを応援したい！ しなければ!と心から叫びたくなります。



今、我々の回りには本当に悔しい！ と思うことが山積みになっています。そんなことを言い出せば限がありません。それはそれでしっかり国民として見守っていくことも大切ですが、それと同時にそれぞれの立場でできることをしっかり考え、行動していくことが必要なのではないのでしょうか？



これからの支援活動と一口に言ってもいろんな事が考えられますが、我々、園芸を生業として、今後の日本社会を引っ張って行ってくれる次世代に一番考えていかなければならないことは、『花(植物)の力』を活用し、被災地のこれからを背負って育てていく子供たちに少しでも植物(生き物)の優しさと勇気と力を届け続ける(継続は力なり)ことではないのでしょうか？



カエデ
kaede

室内緑化最前線

室内緑化は機能の時代へ

近年、国内外で見られる室内緑化サービスの進化は目覚ましいものがある。特に、土のある場所を目にすることの方が珍しいような都市空間においては、「室内にこそ緑を！」という潜在ニーズの高まりが感じられる。現在事例を増やしている室内緑化は、オフィス空間のストレス緩和や、公共スペースの“癒し”として、また小売業の実際のアシストになるような「機能性」を持ったケースが多く見られるようになってきた。花と緑を普及させていくために、屋外ガーデンに加えて建物の中で楽しむ緑にも注目していきたい。

(ガーデンセンター 2012 年 11 月号より)



室内環境に応じた新しい緑化商品も生まれている



パーク・コーポレーションによる中央電力(株)東京本社エントランスの緑化



「森の中の図書館」をイメージして各所に緑を配した徳島市立図書館



(株)パソナのオフィスビル内には、稲作や野菜づくりなど驚きの光景が広がる



赤塚植物園では「緑化しながら売る」新しい販売法も



カエデ
kaede

各地で「いい夫婦の日」の取り組み

九州、広島、大阪、岐阜などで活発に

11月22日の「いい夫婦の日」に対して花業界で花贈りキャンペーンが行われた。全国統一の今年はじめてということもあって、各地の取り組み方もさまざまであったが、福岡市のダイエー笹丘店では、ご主人から奥様への花贈りの提案に、さすが食品を扱ってある企業で、パスタやオリーブオイルと花をパッケージして提案、おしゃれな売場作りをしていた。

広島では、広島花いっぱい推進委員会が、11月20日午後5時から広島市中心部の広島パルコ前で50組のカップルにブーケや一般の方に1000束をプレゼントなど。

岐阜では、岐阜花き流通センターが11月18日、大垣イオンタウンにおいて展開し、二鉢はいるペアバスケットに好みの花を入れてもらったり、ご夫婦で参加された先着十組をいい夫婦の日の鑑(かがみ)として加藤組合長より『日本一いい夫婦』認定証と記念の花を贈呈した。

兵庫県生花では、市場で11月14日、15日にいい夫婦関連商品の展示販売実施した。

(本稿の協力：九州日観、花満、岐阜花き流通センター、兵庫県生花)

岐阜の
取り組み



大阪の
取り組み



九州の
取り組み



広島の
取り組み



【NEW SHOP】

本屋さんで園芸商品を販売「green recipe*」 横浜植木が新スタイルの直営店をオープン

園芸関連商品全般を販売する横浜植木(株)は、園芸初心者向けブランドとして立ち上げた「green recipe*」の直営店を9月にオープンした。全国186店舗の書店を展開する(株)文教堂とのコラボレーションで、文教堂二子玉川店内にショップインショップの形で出店。今後も文教堂と協働して、神奈川県など全国50店舗を目標に展開していく予定で、「本屋の中の園芸売り場」という新しい形態に期待が高まっている。



文教堂二子玉川店内に出店

室内緑化のスキルアップ目指して

社員一丸で文化祭として取り組み ユニバーサル園芸社

今年4月にJASDAQ市場に上場した、観葉レンタルの大手(株)ユニバーサル園芸社は、社員のスキルアップのための文化祭を10月6日、本社で開催した。文化祭は、新入社員から取締役まで全社員が参加して室内用の園芸装飾作品を作るもので、今年で29回を迎え、約60の作品が並んだ。





庭づくりとエクステリア

四国化成工業(株) 田中 靖



ひとが生きていく上においては、時としてこのころの安らぎが求められます。親しい人との会話や食事、あるいは音楽に安らぎを求める場合もあるでしょう。しかし、万人が等しくこのころの安らぎを感じるものは自然とのふれあいではないかと考えます。幸いにも日本は四季に恵まれ、折々に彩られる木々や草花の色彩にこのころをうばわれることは少なくありません。

また、ひとが生活するうえで多くの時を過ごす「住まい」にも安らぎが求められています。室内空間では、水と同じように当たり前に摂取している空気にもインテリアに自然素材を用いるなどの気配りが重要であり、アウトドア空間では小さな自然をつくることで安らぎの空間創造が実現します。

しかしながら、「緑」と付き合うことは決して楽なものではありません。取り掛かりは比較的簡単なものの、手間を惜しめば簡単に荒れてしまいます。たくましい雑草に悩まされ、水やりや剪定も欠かせません。また、場合によっては害虫の駆除も必要になってくるでしょう。さらに、近隣との関わりも無視することはできません。でも、子育てと同様に手塩にかけた分だけ愛着がわき、手間をかけた分だけ庭は四季折々に美しい表情で答えてくれます。

庭周りにおけるエクステリアは、四季折々の小さな自然の表情を愛でるための空間創造の役割を担っていると思っています。古くからある縁側は伝統的な日本文化であります。まさに住まいと庭をつなぎ、小さな自然を愛でる空間創造でありました。現代エクステリアは、庭を愛でる空間からリビングの延長線として、安らぎとともに寛げる空間に形を変えつつ進化しています。

ただ我々が忘れてはならないことは、安らぐ庭づくりの主役は木々や草花などの「自然」であり、エクステリアの役割は自然を邪魔することなく存在することではないかと考えます。エクステリアはハード的な存在ですが、庭周りにおいては単にモノとしての存在ではなく、安らぎの空間をもたらす必然性を持ったソフトでありたいと思います。

会員紹介

クラーク

わたしたちクラークは、地球環境と人に配慮するという意味の E&H (Earth-conscious & Human-conscious) という企業行動基準をもとに、家庭でのガーデニング用ネットから、野球やサッカーなどのスポーツに使われるネット、土木・建築等の産業用、マンションや倉庫、駅などの鳥害防止用にいたるまで、さまざまなネット製品をお届けすることによりお客様の悩みや問題点の解決を提供する会社です。



【クラークは『まもるん』カンパニー！】

私たちがお届けするさまざまな「まもるん」ことを「まもるん」と名付けました。この「まもるん」をお届けすることによって、クラークは人々をネットでどれだけ幸せにできるかに挑戦し続けます。今後ともクラーク株式会社をどうぞよろしくお願いいたします。



クラーク株式会社 〒453-0016 愛知県名古屋市中村区竹橋町 21-4
TEL: 052-451-8571 FAX: 052-451-8165 URL: <http://www.klark.co.jp/>